

会	尾	い	齡	那			を	な	の	範	き	誠	計	築	く	ら	ス		
メ	の	を	者	、	今	□	少	触	勉	疇	た	実	事	設	る	か	停	通	春
ン	性	心	の	松	年	プロ	し	れ	強	も	。振	な	務	備	。大	な	で	勤	北
バ	格	掛	春	尾	も	ロロ	ば	合	会	広	り返	対	所	の	分	春	降	途	斗
ー	が	け	で	勝	勉	ー	か	い	は	が	れ	応	を	設	に	風	り	上	
の	、	て	あ	は	強	グ	り	に	、	つ	ば	と	創	計	戻	に	、	の	く
年	服	い	る	些	会		紐	な	技	た	、	気	立	を	り	、	通	バ	
代	装	る	。勉	少	が		解	っ	術	。特	知	配	し	生	、	い	ス	伝	
を	の	。堅	強	の	始		く	た	を	に	己	り	た	業	幾	慣	か	承	
考	選	苦	会	緊	ま		こ	。春	繼	、	に	の	。確	と	星	れ	ら	す	
え	択	し	の	張	る		と	風	ぐ	次	も	効	か	し	霜	た	、	る	
、	に	い	服	感	。愛		と	に	意	世	恵	いた	な	、	の	の	桜	技	
無	現	霧	装	を	車		し	誘	味	代	ま	仕事	技	地	心	地	並	術	
用	れ	囲	は	覚	に		よ	わ	に	を	れ	を	術	元	地	よ	木	者	
な	て	気	若	え	乗		う	れ	お	担	、	心	力	に	さ	さ	が	の	
世	い	を	向	。前	り			、	い	う	仕	掛	を	密	が	染	見	魂	
代	る	嫌	き	期	込			思	て	若	事	け	基	着	み	く	え		
間	。勉	う	な	高	む			い	、	者	の	て	盤	し	。建	。柔	る		
格	強	松	装		利			出	貴	と			に	た	。設	。バ			
差									重					設	建				

空		り	襟	彼	ら	の	計	金	る		し	た	責	成	講	た	強		を
調	一	上	を	の	し	改	監	山	。	講	て	め	任	で	師	技	会	地	を
や	先	が	開	仲	く	修	理	明	最	師	の	、	の	な	術	術	は	場	避
給	生	つ	き	間	、	現	、	と	初	を	常	技	重	分	の	研	、	大	け
湯	、	た	、	達	松	場	金	の	は	引	識	術	さ	、	修	会	第	手	配
技	自	時	立	も	尾	で	山	出	個	き	を	論	を	、	会	三	の	慮	
術	分	、	場	加	の	知	は	会	人	受	、	以	、	大	で	士	設	も	
を	、	彼	を	わ	気	り	現	い	的	け	折	外	松	事	あ	曜	備	含	
学	日	等	超	り	持	合	場	が	な	、	々	の	尾	な	る	日	工	ま	
び	頃	一	え	、	ち	つ	管	発	勉	十	に	心	は	若	。	が	事	れ	
た	か	人	、	愉	で	た	理	端	強	四	話	構	常	手	テ	開	会	て	
い	ら	が	遠	し	慰	。	の	で	会	年	す	え	に	社	ー	催	社	い	
と	設	が	慮	い	労	彼	立	あ	、	の	こ	、	感	員	マ	日	へ	た	
思	備	眩	の	会	会	の	場	っ	今	歳	と	特	じ	を	を	で	三	。	
っ	の	いた	な	に	を	頑	で	た	は	月	も	に	て	託	含	、	栄		
て	勉	。	い	な	企	張	、	。	管	が	あ	、	い	さ	め	年	工		
い	強		会	っ	画	り	医	松	理	流	っ	社	る	れ	間	業	、		
ま	、		話	た	し	が	療	尾	職	れ	た	会	。	て	を	の	の		
す	特		で	。	た	素	施	は	の	て	。	人	そ	い	通	勉			
。	に		盛	胸	。	晴	設	設		い		と	の	る	し				

そ	の	先	は	一	級	管	工	事	施	工	管	理	技	士	の	資	格	取	得
で	す	。	ど	う	か	、	力	を	貸	し	て	く	だ	さ	い	「			
	「	自	分	も	同	じ	で	す	。	他	の	仲	間	も	同	じ	と	思	い
ま	す	。	是	非	と	も	、	勉	強	会	を	し	て	く	だ	さ	い	「	
		金	山	の	言	葉	だ	っ	た	。	人	柄	を	知	る	だ	け	に	、
の	依	頼	を	重	く	受	け	止	め	る	し	か	な	か	っ	た	。		
	彼	等	の	真	剣	な	眼	差	し	が	、	や	け	に	眩	し	い	。	青
っ	ぽ	い	が	、	真	っ	直	ぐ	な	思	い	を	前	に	し	て	、	安	易
な	判	断	は	で	き	な	か	っ	た	。	お	節	介	な	性	格	は	自	覚
し	て	い	る	が	、	自	社	の	社	員	で	も	な	い	彼	等	の	面	倒
を	見	る	こ	と	に	は	、	流	石	に	躊	躇	い	も	あ	る	。	確	か
に	、	若	手	の	技	術	者	は	可	愛	い	が	、	自	分	の	業	務	も
目	一	杯	の	状	態	で	あ	る	。	ど	う	す	る	べ	き	か	。	自	問
自	答	の	時	が	流	れ	る	。	視	線	を	テ	ー	ブ	ル	に	落	と	し
た	時	、	か	っ	て	の	自	分	の	姿	が	、	一	筋	の	嘴	矢	の	よ
う	に	蘇	っ	て	き	た	。	先	輩	の	薫	陶	を	受	け	、	成	長	し
た	の	は	、	紛	れ	も	な	く	松	尾	本	人	で	あ	る	。	何	事	も
順	番	だ	。	技	術	は	伝	承	す	る	べ	き	も	の	で	あ	る	。	よ
う	や	く	決	意	が	固	ま	っ	た	。									
「	先	生	は	勘	弁	し	て	く	れ	。	お	互	い	設	備	業	界	の	

聞	気	ゆ		部	は	の	先	高	い	の		成	会	二	ち	ら		会	仲
く	の	く	信	に	、	帰	は	架	風	香	四	長	社	年	が	の	こ	を	間
が	車	°	号	も	松	路	、	の	が	り	月	は	の	間	、	気	や	だ	
、	種	前	が	な	尾	に	道	久	訪	が	も	、	中	で	緩	持	ろ	か	
今	で	の	黄	っ	の	、	路	大	ね	あ	中	望	枢	あ	や	ち	う	、	
年	あ	車	色	て	お	高	が	本	て	る	旬	外	を	っ	か	と	°	一	
の	る	は	に	い	気	架	緩	線	く	°	に	な	担	た	に	、	勉	松	
メ	°	黒	変	る	に	の	や	が	る	少	な	喜	う	°	融	少	緒	尾	
ン	最	色	わ	°	入	宗	か	道	°	し	る	び	人	当	和	し	に	さ	
バ	近	の	り		り	麟	に	路	前	開	と	ご	材	時	さ	で	頑	ん	
ー	の	S	、		の	大	上	を	方	放	、	と	に	の	れ	も	張	で	
は	若	U	徐		一	橋	る	横	に	し	吹	で	な	メ	て	伝	ろ	良	
ど	い	V	々		つ	か	宗	断	視	た	く	あ	っ	ン	い	え	う	い	
う	世	°	に		で	ら	麟	し	線	窓	風	る	て	バ	っ	た	ー	°	
だ	代	若	車		、	眺	大	て	を	か	に	°	い	は	°	い		よ	
ろ	は	い	が		勉	め	橋	い	転	ら	微		る	、	松	尾		よ	
う	車	世	停		強	る	°	る	じ	、	か		°	充	の		し		
°	離	代	車		会	夕	勉	°	る	心	な		彼	今	気		、		
そ	れ	に	し		の	焼	強	そ	と	地	新		ら	で	持		勉		
ん	と	人	て		一	け	会	の	、	よ	緑		の	は	た	持	強		

守	何	は	と		重	活	大	き	ろ	大	橋	く	麟	豊	目	ち		認	な
る	で	な	も	科	み	が	分	た	で	友	の	南	の	後	の	の		す	、
こ	あ	い	云	学	が	脈	に	人	あ	宗	名	蛮	館	の	前	暫	松	る	他
と	ろ	。未	わ	技	あ	々	、	々	る	麟	称	文	跡	国	に	時	尾	と	愛
。過	う	来	れ	術	る	と	悠	の	。大	に	は	化	が	が	拡	、	偶	、	も
信	か	に	て	の	。	続	久	存	大	由	、	を	あ	隆	が	に	十	な	い
は	大	向	る	進		い	の	在	友	来	市	取	る	盛	る	瞑	分	疑	間
駄	切	け	。建	歩		い	時	も	館	す	民	入	。進	を	光	想	余	が	惹
目	な	て	築	は		。こ	間	裏	跡	る	か	れ	取	誇	景	を	裕	惹	起
。謙	こ	、設	設	目		の事	が	付	の存	こ	ら	た	の	つ	。宗	出	が	惹	さ
虚	と	備	備	覚		実	流	け	在	は	の公	偉	概	た	麟	て	あ	起	れ
な	は	技	の	ま		に	れ	て	は	、	募	人	に	時	大	しま	っ	た	る
心	、人	術	分	し		、	、	い	、	万	で	あ	溢	代	橋	つ	。	。	。
で	々	者	野	く		、	市	る	そ	人	決	る	れ	の	の	た			時
、技	の	の	も	、A		、	井	。ふ	の	の	定	。宗	、	北	北	。引			計
術	生	役	例	I		歴	の	る	代	知	さ	麟	い	側	に	き			を
者	活	割	外	の		史	人	さ	を	と	れ	ち	ち	は	は	金			確
	を	は	で	時		の	々	と	生	こ	た	大	早	宗	、	は	待		

の	い	松	着	配	に	が		近	れ	成	メ	券	会			者	だ	な	の	
掴	る	尾	き	置	振	着	会	で	て	長	ン	困	議	勉	口	で	。	け	本	
み	。	へ	、	は	り	席	場	見	し	し	バ	気	室	強	勉	あ	い	れ	分	
が	例	の	会	口	向	し	に	ら	ま	た	ー	を	ま	会	強	り	っ	ば	を	
重	年	興	場	の	く	て	入	る	。	姿	や	味	で	の	会	た	ま	、	果	
要	と	味	内	字	表	い	と	こ	若	を	新	わ	は	会	い	も	未	た	す	
に	一	が	を	形	情	。	、	と	い	見	入	う	階	場	の	だ	の	こ	こ	
な	緒	、	一	、	が	。	作	は	技	つ	社	た	段	は	、	の	A	と	と	
る	だ	緊	瞥	窓	何	緊	業	講	術	け	員	め	を	、	社	会	I	で	あ	
が	。	張	す	側	と	張	服	師	者	る	の	に	使	三	に	時	代	あ	る	
、	こ	し	る	が	も	し	姿	冥	の	と	仕	。	用	栄	貢	代	に	。	こ	
無	の	表	。	松	初	た	の	利	変	、	事	時	す	工	献	に	も	こ	の	
理	緊	情	新	尾	々	様	メ	に	貌	思	ぶ	と	。	業	で	き	対	こ	こ	
に	張	か	入	の	し	子	ン	尽	す	わ	り	し	折	の	る	る	応	と	を	
笑	感	ら	社	指	い	で	バ	き	る	ず	が	て	々	五	設	備	で	き	を	
い	の	滲	員	定	。	、	ー	る	。	微	目	か	に	階	備	技	き	る	忘	
を	中	み	は	席	テ	松	十	。		笑	に	つ	社	会	術	る	る	れ	れ	
取	、	出	四	。	ー	尾	二			み	入	て	内	議	室					
る	最	て	名	席	ブ	の	人			が	る	の	の	室	。					
こ	初		、	に	ル	方				漏	。									

習得が重要で、そのため、勉強会を開催	○設備はエンジニアの仕事である。技術の	今の勉強会形式になった	縁に始まり、その後、社長の理解を得て	○講師を引き受けた理由は、金山部長との	設備に方向転換した	に興味を持ち、エンジニアの世界へ空調	が、航海実習で体験した船舶のシステム	○大学は商船大学で、海の世界を目指した	情報もあり、大分に戻って来た	○東京の会社に勤務していたが、家庭の事	役で、約40年の経験がある	○現在は設備設計会社へE E設計の相談	な略歴と、勉強会の経緯を話すことにした。	ごく普通な前口上から始めた。次に、簡単	は松尾と申します。	要な紹介ですが、改めて聞いてください。私	「自己紹介をします。先輩の皆さんには不	の信頼を得ることが大切だから。	とはしない。実直に話すだけ。まずは、彼ら
--------------------	---------------------	-------------	--------------------	---------------------	-----------	--------------------	--------------------	---------------------	----------------	---------------------	---------------	---------------------	----------------------	---------------------	-----------	----------------------	---------------------	-----------------	----------------------

出	し		の	資	差	分	る	社	こ	考	や		が	し	し		質		
し	ま	「	友	料	し	の	に	会	れ	え	は	新	ら	た	ま	「	問	新	
て	す	今	人	で	°	意	は	人	も	を	り	入	な	動	す	新	す	入	し
、	°	村	を	、	直	見	、	は	仕	説	、	社	い	機	°	入	る	社	て
先	思	優	彷彿	名	ぐ	を	先	必	事	明	先	員	場	で	三	社	こ	員	い
陣	い	也	す	前	に	持	入	要	だ	す	陣	の	合	す	栄	の	と	の	る
を	付	く	る	は	見	つ	観	だ	°	る	を	四	は	°	工	皆	を	性	
切	く	ん	面	把	つ	人	抜	°	思	こ	切	名	、	ど	業	さ	思	格	
っ	ま	で	影	握	け	材	き	経	っ	と	の	互	私	な	の	ん	い	を	
て	ま	す	が	し	る	は	の	験	て	は	は	か	か	た	仕	に	つ	掴	
く	で	ね	あ	て	こ	必	刮	上	欲	、	嫌	ら	指	で	事	、	い	み	
だ	良	°	っ	い	と	ず	目	、	し	大	と	指	名	も	内	大	た	た	
さ	い	君	た	°	が	い	が	こ	い	事	見	名	し	結	容	切	°	い	
い	で	か	°	天	で	°	有	の	°	な	え	合	ま	構	と	な		と	
「	す	ら	話	逝	き	着	効	状	技	能	る	っ	す	で	、	こ		思	
	よ	話	を	し	た	眼	に	況	術	力	°	て	「	す	会	と		い	
	°	を	お	た	°	点	な	を	で	あ	自	い		°	社	を		、	
	勇	願		松	事	は	る	打	あ	分	分	た		手	を	質		彼	
	気	い		尾	前	眼	°	破	る	の	の	°		が	志	問		ら	
	を				の		自	す	も					上	望			に	

尽	尾	六	件	で		し	た	た	に	す	め		堅	勉	今	の		伺	
く	は	感	で	、	松	た	°	°	、	る	手	「	実	強	の	配	「	え	立
す	経	と	も	着	尾	の	自	雰	若	思	で	次	な	中	時	管	三	る	ち
こ	験	云	あ	眼	は	で	分	囲	い	い	す	に	経	の	点	工	栄	°	上
と	で	う	る	点	面	、	の	気	先	を	°	、	営	毎	で	事	工	や	が
で	知	か	°	が	白	後	ア	の	輩	伺	大	志	状	日	は	が	業	は	り
得	っ	、	問	面	い	は	ン	良	が	い	学	望	態	で	分	主	は	り	、
ら	て	感	題	白	新	そ	テ	い	多	ま	で	動	だ	か	体	設	備	、	話
れ	い	性	決	い	人	れ	ナ	会	く	し	の	機	と	り	で	工	事	友	し
る	る	の	の	°	だ	を	に	社	、	た	企	で	承	ま	す	°	人	に	始
感	°	ア	最	感	と	信	前	だ	会	°	業	す	知	せ	設	似	に	め	る
覚	悩	ン	後	性	思	じ	向	と	社	ま	紹	が	し	ん	備	て	い	姿	に
で	み	テ	の	は	っ	ま	き	直	の	、	介	、	て	°	の	容	に	る	、
あ	、	ナ	決	技	た	し	な	ぐ	活	会	時	社	い	先	、	に	°	°	、
る	考	次	め	術	°	た	反	に	気	社	に	長	ま	輩	つ	専	、	、	、
°	え	第	手	者	感	「	応	分	を	訪	、	の	す	に	門	用	社	、	、
最	、	だ	は	の	性		が	か	感	問	会	熱	「	付	話	、	建		強
初	努	と	、	必	が		あ	り	じ	の	社	意		い	は	物			さ
の	力	、	、	要	鋭		り	ま	ま	際	に	が		て	、				が
勉	を	松	第	条	敏		ま	し	し		対	決		、					

○	○	建	き	を	と	る	の	て	さ	た		一	今	筋		き	強
建	建	築	の	設	は	こ	業	、	が	。精	そ	緒	の	道	「	た	会
築	築	に	努	け	難	と	務	建	眩	一	の	に	が	明	あ	。次	で
に	は	つ	力	ま	し	が	を	築	し	杯	後	頑	持	確	が	回	、共
は	、	い	を	す	い	、	含	界	い	の	、	張	ち	で	と	が	感
哲	、	話	し	。一	で	良	め	の	。当	様	緊	り	を	、	う	愉	で
学	絵	し	て	歩	す	さ	、	理	たり	子	張	ま	忘	内	、	し	き
や	画	ま	く	一	。一	そ	建	解	前	が	気	し	れ	容	今	み	る
技	や	す	だ	歩	歩	う	築	不	だ	一	味	よ	な	が	村	に	感
術	音	ー	さ	で	も	に	及	足	が	目	な	う	三	十	く	な	性
の	楽		い	も	、	思	び	が	、	瞭	人	ー	分	分	ん	る	を
裏	と		。そ	良	こ	え	設	あ	四	然	の		に	に	。緊	。持	つ
付	同		れ	い	の	た	備	っ	人	で	新		伝	わ	張	つ	人
け	様		では	です	よう		の	た	に	、	人		わ	り	感	の	材
が			、最	。自	な		内	。三	共	若	が		り	ま	の	中	に
あ			初	分	機		容	栄	通	さ	話		ま	し	で		遭
る			に	磨	会		を	工	と	と	を		した				遇
。		創					説	業	し	素	続		、				で
		出					明	す		直	け						

と	の	工	で	事	が	協		の	設	担	人	が	買	活	・	で	建		ろ
称	分	業	す	・	あ	力	「	が	備	っ	々	診	や	を	医	す	築	「	う
さ	野	の	°	外	り	し	建	あ	業	て	の	断	飲	営	療	°	は	次	°
れ	で	仕	裾	装	、	て	築	り	界	い	生	や	食	み	施	そ	、	は	身
ま	す	事	野	・	例	完	は	ま	全	ま	活	治	を	ま	設	の	建	身	
す	°	は	が	内	え	成	施	す	体	°	が	療	し	°	等	用	物	近	
°	電	、	大	装	ば	に	主	「	で	守	守	を	ま	で	途	を	を	な	
生	気	そ	変	・	、	至	の		考	ら	れ	受	°	店	は	新	建	例	
活	設	中	広	給	土	り	思		え	れ	ま	け	医	舗	、	築	築	と	
の	備	で	い	排	工	ま	い		れ	ま	°	ま	療	で	・	設	設	一	
基	と	も	仕	水	事	°	を		ば	°	私	°	施	あ	改	備	備	に	
盤	合	給	事	・	・	施	汲		、	達	は	そ	設	れ	修	で	°	話	
を	わ	排	と	空	基	工	み		そ	は	そ	う	で	ば	す	°	私	を	
守	せ	水	云	調	礎	は	、		の	は	の	し	は	、	私	達	°	し	
る	て	・	え	換	工	多	多		力	小	そ	て	、	お	達	が	よ	う	
重	、	空	ま	・	事	く	く		は	さ	の	、	患	客	が	携	°		
要	建	調	°	電	・	の	の		大	く	一	大	者	さ	同	わ			
な	築	換	三	気	体	人	々		き	も	翼	分	さ	ん	住	る			
分	設	気	栄	等	工	々	が		い	、	を	の	ん	購	宅	的			
野	備								も										

る。	人物が、時代の潮流に乗り、一旗を揚げ	ある。港湾や道路建設等、目先の利いた	○組の付く社名は、建設業の発展に係が	くある。全国大手の会社も然り	表す言葉で、社名に組の付く会社が多	○請負業と云う表現は、建築業界を端的に	者で、サブコンと称されている	コンと呼ばれる。三栄工業は専門工事業	○建設会社は総合請負業者で、通称、ゼネ	仕組みを話した方が良いであろう。	栄工業が設備工事会社である以上、請負業の	ここで、少し視点を交えることにした。三	会を通して知識を身に付けていきましよう。	の修得は、一朝一夕にはできませんが、勉強	す。やはり甲斐のある仕事だと思えます。技術	であります。設備は施設の根幹を守る仕事で	発生します。医療施設の人工透析等がその例	水や停電になれば、人命に関わるトラブルが	です。水や電気は生活に直結します。ので、断
----	--------------------	--------------------	--------------------	----------------	-------------------	---------------------	----------------	--------------------	---------------------	------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------

だ	社		お	若	君		然	長		す		不	岳	を	え	を	松	堵	
っ	が	金	願	い	な	一	と	が	振	。	一	意	が	和	る	些	尾	の	休
た	設	山	い	ス	ら	久	懐	い	り	お	先	に	聳	ま	花	少	は	様	憩
。	計	部	っ	タ	大	し	か	る	向	願	生	、	え	し	萌	で	ブ	子	時
施	し	長	て	ッ	丈	ぶ	し	。	く	い	、	て	い	て	葱	も	ラ	が	間
工	た	の	何	フ	夫	り	さ	は	と	が	金	か	る	く	色	冷	イ	覗	に
を	福	依	？	に	だ	、	が	に	、	あ	山	し	る	れ	に	静	ン	え	入
担	祉	頼	ー	伝	。	工	込	か	工	っ	で	い	。	る	装	に	ド	る	り
当	施	は		え	折	事	み	む	部	て	す	声	松	。	う	し	を	。	、
す	設	簡		て	角	部	上	様	を	、	。	が	尾	近	山	た	上	彼	メ
る	の	単		ほ	の	の	げ	子	統	会	今	聞	の	く	の	か	げ	ら	ン
の	デ	な		し	現	部	て	は	括	場	年	こ	安	は	稜	っ	る	の	バ
で	ー	内		い	場	長	く	相	し	ま	も	え	ら	靈	線	た	。	仕	ー
、	タ	容		な	知	は	る	変	て	で	お	た	ぎ	山	が	。	熱	草	の
設	に	で		。	識	大	。	わ	い	来	世	。	の	、	、	遙	く	を	表
計	関	、		と	、	変		ら	る	ま	話		一	遠	疲	か	眺	情	か
図	す	松		こ	ど	だ		ず	金	し	に		時	く	れ	彼	め	ら	ら
面	る	尾		ろ	ん	ろ		で	山	た	な		で	に	た	方	っ	は	は
の	こ	の		で	ど	う		、	部	ー	り		あ	由	身	に	熱	っ	安
デ	と	会		、	ん	。		自			ま		る	布	体	見	情	、	

。

ん		剥	当	い		私		理	だ		婉	は	心		で		で	承	ト
だ	「	が	面	感	「	な	「	職	よ	「	曲	無	の		き	「	過	諾	タ
。	た	れ	は	じ	は	り	勿	ら	。	ス	な	用	知		る	先	し	を	
眼	だ	る	猫	は	っ	の	論	し	当	ト	言	。	れ		後	生	て	頂	
差	、	時	を	あ	き	参	で	い	て	レ	い	互	た		輩	、	、	き	
し	気	が	被	る	り	考	す	質	に	丨	方	い	間		は	休	たい		
が	に	愉	る	け	言	に	。	問	は	ト	は	を	柄		い	憩	い		
良	な	し	期	ど	っ	す	先	と	な	だ	不	尊	の		ま	時	と		
い	る	み	間	、	て	る	生	承	ら	な	要	敬	証		す	間	云		
。	新	だ	だ	致	、	だ	の	り	な	。	で	す	で		か	の	う		
理	人	ね	し	し	例	け	感	ま	い	彼	あ	る	あ		「	数	内		
解	が	「	、	方	年	で	じ	し	け	ら	。	。	ろ			分	容		
力	一		徐	な	よ	す	た	た	ど	と		気	う		間	で			
も	人		々	い	り	か	ま	「	、	は		持	。		を	あ			
あ	い		に	こ	良	ら	ま		良	会		ち	技		、	っ			
る	る		化	と	い	「	で		い	っ		さ	術		た				
し	。		け	だ	。		結		か	た		え	者		。	直			
、	今		の	ろ	大		構		な	ば		あ	に		の	ぐ			
将	村		皮	う	人		で		。	か		れ	遠		雑	に			
来	く		が	。	し		す		管	り		ば	慮		談				

の	が	○	毎	新	い	皆	仕	一	奏	緊	□	時	に	終	短	く	参	一	が
設	設	施	の	入	と	さ	組	早	し	張	勉	間	な	了	い	お	考	先	期
計	計	工	役	社	思	ん	み	速	た	感	強	が	っ	。率	休	願	に	生	待
応	部	会	割	員	い	の	は	で	の	が	会	戻	。会	直	憩	い	さ	、	でき
援	で	社	を	も	ま	会	、	す	か	ほ	で	っ	。場	な	時	し	せ	あ	そ
を	、	の	、	既	す	社	理	ー	も	ぐ	設	て	内	意	間	ま	て	り	う
担	現	主	松	知		、	解		知	れ	備	い	に	見	は	す	が	だ	
当	場	体	尾	の		三	で		れ	な	を	た	は	交	、	ー	と	ー	
	で	は	なり	話		栄	き		い	。う	語		、	換	世		う		
	の	工	の	だ		工	ま		。だ		る		勉	も	間		ご		
	変	事	解	と		業	し						強	で	話		ざ		
	更	部	釈	は		の	た						会	き	と		い		
	対	。そ	で	思		仕	か						特	、	新		ま		
	応	の	説	っ		事	。こ						有	充	人		す		
	や	側	明	た		内	こ						の	実	の		。今		
	、	面	し	が		容	か						静	し	人		の		
	新	支	た	、		に	ら						謚	時	物		こ		
	規	援	。部	門		触	は						な	間	評		と		

二				○									に		一	と	説								
番	す	そ	算	私	な	で	が	水	一	○	即	一	杯	に	明	こ									
目	る	し	し	達	基	、	必	槽	回	節	し	番	耳	し	は	こ									
は	こ	て	、	が	準	適	要	の	の	水	た	目	を	よ	完	こ									
給	と	、	結	可	値	宜	。 便	設	洗	器	使	は	傾	う	了	こ									
湯	が	そ	果	能	の	な	覧	計	浄	具	用	給	け	。 難	。 次	こ									
設	必	の	を	な	見	見	の	に	水	が	量	水	て	し	は	こ									
備	要	結	水	対	直	直	基	は	量	普	を	量	欲	い	、	こ									
。 近		果	道	応	し	し	準	現	1	及	説	の	し	設	備	こ									
年		か	局	策	は	が	数	実	2	し	明	基	い	備	に	こ									
は		ら	担	は	不	必	量	に	L	、	す	準	と	の	お	こ									
給		適	当	、	可	要	は	即	が	器	る	値	願	新	ける	こ									
湯		正	者	実		。 し	従	した	5	具	こ	。 所	う	技	基	こ									
器		な	に	態		か	来	使	L	使	に	背		術	礎	こ									
の		水	相	の		し	通	用	に	用	し	景		に	技	こ									
技		槽	談	数		、	り	量	減	量	た	と		触	術	こ									
術		容	す	値		勝	な	計	少	が	。 実			れ	の	こ									
革		量	る	で		手	の	算	。 算	少	。 態			る	概	こ									
		に	。 。	計						量				こ	要										

「	吸	っ	バ	で	全												今	し	で		な
一	を	か	ー	あ	て												後	ま	、	四	っ
気	一	り	の	ろ	の	現											も	ま	経	番	て
に	つ	と	輝	う	こ	場											継	う	験	目	欲
話	、	、	く	か	と	は											続	。へ	者	は	し
を	更	松	表	。一	は	別											し	に	技	い	
しま	に	尾	情	抹	話	れ											て	な	術	と	
した	言	の	を	の	を	た											貫	る	者	願	
。初	葉	思	見	不安	した	い										いた	べ	の	っ		
回	を	いは	、	が	。気	で										いと	か	心	て		
で、	続	伝わ	大	過	持	会										思	ら	構	いま		
それ	け	つて	丈夫	ぎ	ちは	お										う。	ず	え。	す		
も	た	いる	だと	った	は	う										の	忘れ	最	ー		
多	。初	。深	納得	が、	伝	ね										気	がち	も			
	回	呼	。深	、	わ	こ										持	にな	大			
	で、		。深	メン	った	の										ち	なっ	切			
	そ		。深		た	言										を	つて	な			
	れ		。深		た	葉										、		こ			
	も		。深		た	で												と			
	多		呼		た																

体的にはどうすれば良いですか	場で対応です。建築内容が変わる場合、具	の話聞いて、考えることがありました。現	年の勉強会で、負荷計算を学びました。今日	「先生、空調設備について質問します。昨	と成長した。一年目であった。質問します。昨	多かったです。ただ、前向きな性格もあり、随分	系の学部卒業なので、数字と格闘すること	を設け、有意義な検討会になった。藤原は文	討会では、先輩達が登場経験を話すコーナー	で先輩参加の設計技術検討会を開催した。検	語の説明から始め、主体を給排水設備、途中	の藤原。昨年の勉強会を思い出した。建築用	が愉しみになった。最初の質問者は、二年目	何だか、メンバーの反応が良い。質問内容	遠慮は無用ですよ	で話を聞いて、何か質問はありますか。	強会をしますの、で、安心してください。今ま	た点もあると思いいます。今後とも同じ内容の勉	岐に渡る話題に触れました。今後とも同じ内容の勉
----------------	---------------------	---------------------	----------------------	---------------------	-----------------------	------------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------	--------------------	-----------------------	------------------------	-------------------------

不 足 を 痛 感 し た の で 、 一 歩 一 歩 頑 張 り ま す 。	だ ら け で す 。 今 日 は 勉 強 に な り ま し た 。 知 識	「 設 備 の こ と 、 建 築 の こ と 、 知 ら な い こ と	と 、 何 故 だ か 、 質 問 内 容 が 気 に な っ て き た 。	る 存 在 の 今 村 で あ っ た 。 彼 の 表 情 を 見 て い る	手 が 上 が っ て い た 。 次 の 質 問 者 は 、 気 に な	「 他 に 、 質 問 は あ り ま せ ん か 」	「 先 生 、 そ の 時 は よ ろ し く お 願 い し ま す 」	ま す か ら 。 安 心 し て く だ さ い 。 「	場 合 は 私 を 頼 っ て く だ さ い 。 一 緒 に 作 業 を し	と も 一 策 だ と 思 い ま す 。 も し 、 本 当 に 困 っ た	算 が 無 理 で あ れ ば 、 設 計 部 門 に 支 援 を 頼 む こ	の 時 間 帯 な の で 、 注 意 が 必 要 で す 。 自 分 で 計	響 を 強 く 受 け ま す 。 特 に 、 西 面 の 場 合 は 夕 方	を 勧 め ま す 。 東 西 面 の 窓 ガ ラ ス は 、 日 射 の 影	機 器 が 変 更 に な る 場 合 は 、 再 度 計 算 す る こ と	「 変 更 内 容 次 第 で す 。 窓 ガ ラ ス や 内 部 発 熱	随 分 と 頼 も し く な っ た も の だ 。 」	者 に な る 将 来 へ の 対 応 か な 。 ど ち ら に せ よ 、	今 の 現 場 の こ と な の か な 。 そ れ と も 、 責 任
--	--	---	--	--	---	--	---	---	--	--	--	--	--	--	--	---	---	--	---

れ	時	素		に	え	言		ま	す	野	し	り	今	び	大	が	個	生	技
ま	間	直	一	し	な	わ	ど	す	か	を	て	湧	日	付	学	好	人	の	術
し	に	に	最	し	い	ば	真	か	°	一	好	い	は	く	で	き	的	話	的
た	も	自	初	よ	が	人	ん	°	経	つ	き	て	設	分	学	で	な	を	な
°	関	分	に	°	、	生	中	出	験	に	な	き	備	野	ん	、	心	聞	質
私	わ	の	、		彼	相	の	来	を	絞	絵	ま	の	で	だ	構	い	問	
へ	ら	こ	今		の	談	直	れ	重	れ	の	し	重	が	工	え	て	以	
の	ず	と	村		目	の	球	ば	ね	な	世	た	要	、	学	で	、	外	
信	、	を	く		を	類	°	、	と	い	界	°	性	、	、	す	甘	で	
頼	私	話	ん		見	い	勉	助	、	°	が	そ	を	技	今	°	え	申	
と	に	し	に		て	°	強	言	折	分	あ	の	伺	術	の	僕	て	し	
受	悩	て	エ		、	か	会	を	り	合	り	反	い	的	三	は	み	訳	
け	み	く	ー		誠	る	の	お	合	い	ま	面	ま	な	栄	小	よ	あ	
取	を	れ	ル		実	に	質	願	い	す	°	で	し	こ	工	さ	う	り	
り	打	ま	を		に	応	問	い	し	れ	進	が	た	と	業	い	と	ま	
ま	ち	し	送		え	え	と	し	ま	ば	む	°	°	も	の	頃	思	せ	
し	明	°	り		る	る	は	ま	す	良	べ	興	興	好	仕	か	い	ん	
た	け	短	ま		こ	し	異	す	°	い	き	味	も	き	事	ら	ま	が	
°	て	い	す		と	か	な	一	ら	で	分	と	よ	で	に	、	し	、	
正	く		°			言	る		れ				よ	す	結	論	た	先	

果	だ	め		今	べ	思	揉	き	す	ま	乏	建	識	な	ど	ま	ん	聞	直
、	ろ	る	沈	を	て	い	ま	ま	が	す	し	築	の	お	ち	す	の	い	、
そ	う	。そ	黙	精	が	ま	れ	せ	、	。両	い	実	証	お	ら	。整	能	て	私
の	。会	の	の	一	勉	す	、	ん	へ	親	能	務	で	か	も	理	力	く	が
空	場	時	時	杯	強	。設	工	。折	石	に	力	を	す	、	、	能	で	だ	応
気	内	、	が	努	で	備	学	角	の	感	で	容	。秀	絵	設	力	あ	さ	え
は	に	今	流	力	す	の	系	、	上	謝	す	易	逸	が	備	と	れ	い	て
直	、	村	れ	す	。先	仕	の	入	に	で	か	に	な	好	技	説	ば	。印	も
ぐ	一	が	、	る	の	事	能	社	も	す	ら	し	空	き	術	明	、	象	良
に	抹	口	一	こ	こ	は	力	し	三	ね	、	ま	間	な	者	能	会	い	の
安	の	を	言	と	と	人	を	た	年	。私	今	。設	能	こ	に	力	社	ら	か
堵	不	開	補	だ	は	間	磨	会	〃	が	村	備	力	と	は	が	に	話	な
感	安	く	う	と	分	力	く	社	の	で	く	分	が	は	、	備	役	し	と
に	感	。何	べ	思	か	で	こ	で	言	す	ん	野	あ	優	わ	立	つ	ま	思
変	が	を	き	い	か	す	と	す	葉	。人	は	の	る	れ	っ	つ	人	す	い
わ	漂	話	か	ま	と	。人	も	。現	し	助	恵	人	こ	た	て	材	。今	ま	ま
っ	う	す	考	す	せ	生	有	場	か	言	ま	間	と	空	い	に	。今	す	が
た	。結	の	え	一	ん	す	り	で	思	で	れ	に	は	間	ます	な	村	が	、
。			始		が		だ		付		い		、	認			く		

り	ま	現		思			ら	大		え		の	い		指	消	訳	え	
返	し	場	「	わ	お	「	は	人	す	や	「	エ	。	本	し	し	あ	て	「
し	た	の	今	ず	世	松	人	し	か	す	他	ー	今	音	、	た	り	し	先
ま	。	乗	は	微	辞	尾	気	い	さ	い	に	ル	村	の	精	い	ま	ま	生
し	金	り	保	笑	が	先	が	タイ	ず	質	質	が	君	言	一	気	せ	い	、
た	山	込	育	み	言	生	あ	イ	、	問	問	、	、	葉	杯	持	ん	ま	あ
。	部	み	園	が	え	、	る	プ	三	が	は	今	自	だ	頑	ち	で	し	り
い	長	が	の	漏	る	お	と	だ	年	嬉	あ	の	分	と	張	で	た	た	が
つ	の	遅	新	れ	よ	世	聞	が	目	し	り	松	を	嬉	り	す	。	。	と
か	応	れた	築	た	う	話	い	、	の	い	ま	尾	信	し	ま	立	個	う	
は	援	た	現	。	に	に	て	誠	林	で	せん	が	じ	い	す	派	人	ご	
、	も	の	場		な	な	い	実	か	す	か	で	て	。	な	な	的	ざ	
後	あ	で	を		っ	っ	る	な	ら	ー	。	き	頑	今	現	話	な	い	
輩	り	、	担		た	て	。	対	質		。	張	は	場	ば	を	話	ま	
の	、	一	当		彼	い		応	問		。	れ	信	代	、	し	を	す	
応	何	時	し		の	ま		で	が		。	。	じ	理	質	し	し	。	
援	と	は	て		口	す		、	届		こ	こ	る	人	問	、	、	素	
が	か	苦	い		調	ー		施	いた		の	の	し	を	取	申	直	に	
で	、	労	ま		に			主	た		無	無	か	を	り	し	に	甘	
き	盛	し	す		、			か	。		言	言	な	目	目	し	甘		

に	当	も	問	設	偶	悪	覚	感	と		を	会	い	多		凄	お	と	る
す	者	な	題	備	に	で	ま	覚	思	仕	物	の	一	い	先	く	聞	思	先
る	は	い	が	に	、	あ	で	的	っ	事	語	講	因	分	ず	あ	か	っ	輩
時	知	こ	な	詳	褒	る	は	な	っ	に	っ	師	に	、	は	り	せ	て	に
、	っ	と	い	し	め	。理	分	要	て	辛	て	を	、	案	、	ま	く	い	なり
設	て	が	こ	い	ら	不	か	素	い	い	い	引	松	件	話	す	だ	ま	り
備	い	、	と	場	れ	尽	ら	に	。建	。記	。憶	き	尾	の	し	。ど	さ	す	ま
の	る	実	を	合	る	と	な	な	築	憶	。。	受	の	選	や	。ど	い	。で	す
仕	。そ	は	評	で	こ	簡	い	。。	と	が		け	お	択	す	う	。ど	。き	。仕
事	ん	評	価	あ	と	単	気	施	異	多		た	節	を	い	か	。ん	。れ	事
は	な	価	し	る	が	に	分	主	なり	い		事	介	迷	内	、お	な	。ば	に
へ	理	に	て	。業	あ	は	次	や	、	の		実	な	う	容	願	話	、	苦
縁	解	値	く	務	。建	割	第	建	設	は		が	性	程	に	い	な	先	労
の	者	す	る	の	築	り	で	築	設	、		正	格	だ	感	し	の	生	は
下	と	こ	。支	完	担	切	の	担	備	設		に	が	。苦	謝	ま	か	の	付
の	業	と	障	了	当	れ	評	当	の	備		そ	あ	。苦	。苦	す	、	苦	き
力	務	を	が	後	者	な	価	者	評	の		の	る	。苦	。苦	。興	興	。話	も
持	を	、	何	に	が	い	は	の	価	宿		こ	。勉	。苦	。苦	味	味	。の	の
ち	共	担		、	が	。。	最	感	は	命		と	強	多	が	が	を	だ	だ

夫	か	域	観	う	面	は	は	智			く	い	び		案	い		設	の
が	し	で	と	と	積	確	手	雄	大	□	だ	話	つ	「	件	心	案	備	言
施	、	評	周	こ	1	か	広	は	分	勉	さ	が	く	分	を	、	屋	葉	
さ	道	判	囲	ろ	8	2	く	、	市	強	い	て	こ	か	探	そ	の	が	
れ	路	の	の	の	3	0	事	大	の	会	°	ん	と	り	す	ん	醍	、	
て	部	建	植	大	坪	0	業	分	西	で	参	こ	を	ま	°	な	醐	当	
い	か	物	栽	豪	の	0	を	で	部	経	考	盛	学	し	該	大	味	を	
る	ら	で	が	邸	二	年	展	も	に	験	に	り	ん	た	当	事	で	得	
°	の	あ	見	°	世	で	開	有	大	談	な	で	だ	°	案	な	あ	て	
そ	景	っ	事	料	帯	、	し	名	場	を	れ	す	案	諦	件	こ	る	い	
の	観	た	に	亭	住	R	て	な	邸	語	ば	、	件	め	に	と	°	る	
意	に	°	調	を	宅	C	い	経	は		嬉	笑	で	な	思	を		こ	
匠	、	敷	和	思	で	造	る	営	あ		し	わ	す	い	当	伝		と	
的	広	地	し	わ	あ	二	°	者	る		い	な	°	心	た	え		が	
な	が	は	、	せ	る	階	大	で	°		で	い	私	が	っ	る		実	
配	り	高	竣	る	°	建	場	、	施		が	で	の	、	た	に		感	
慮	を	低	工	瀟	世	て	邸	そ	主		「	、	恥	解	°	相		で	
が	持	差	後	洒	間	、	の	の	の			聞	ず	決	応	し		き	
、	つ	を	は	な	で	延	竣	会	大			い	か	に		い		る	
建	工	活	地	外	云	床	工	社	場			て	し	結		い		°	

し	大	が		行	両	流	に	が	ン	錦	問	関	に	関	外	二	た	位	物
た	場	色	大	の	親	れ	身	で	ボ	鯉	者	ま	は	、	部	重	配	置	全
外	の	濃	場	証	の	を	を	き	ル	が	を	で	、	二	と	の	置	に	体
観	多	く	邸	で	姿	感	任	る	ツ	優	優	の	約	ケ	の	な	両	の	
、	大	反	に	あ	が	じ	せ	°	リ	雅	し	石	6	所	隔	な	親	奥	
細	な	映	は	る	、	る	る	腰	ー	に	く	畳	0	に	離	っ	の	行	
部	る	し	、	の	目	°	と	掛	や	泳	迎	を	坪	役	を	て	住	き	
ま	信	て	意	か	に	掛	、	石	ハ	ぐ	え	歩	の	割	凶	い	居	感	
で	頼	い	匠	も	浮	け	静	に	ナ	東	て	む	庭	が	る	る	部	を	
行	が	る	設	知	か	替	謚	座	ミ	池	く	と	が	分	主	°	、	増	
き	あ	°	計	れ	ぶ	え	さ	り	ズ	と	れ	、	配	担	玄	両	プ	幅	
届	る	勿	者	な	よ	の	の	、	キ	、	°	芝	置	さ	関	親	ラ	し	
い	°	論	の	い	う	な	中	木	の	イ	視	生	さ	れ	、	宅	バ	て	
た	優	、	思	°	だ	い	に	の	樹	ロ	線	と	れ	て	両	を	シ	い	
内	雅	そ	い		°	時	、	葉	木	ハ	を	低	い	い	親	訪	ー	°	
部	で	の	、		大	間	優	の	を	モ	を	木	る	る	専	れ	保	奥	
仕	ス	背	設		場	を	し	そ	見	ミ	転	の	°	°	用	る	護	ま	
上	ッ	景	計		の	過	い	よ	る	ジ	じ	緑	内	そ	の	際	を	っ	
げ	キ	に	意		親	ご	時	ぐ	こ	の	る	が	内	の	内	は	兼	た	
、	リ	は	図		孝	す	の	風	と	シ	と	訪	玄	間	玄	°	ね		

と		往	く	傍	に	の		く	て	方	の	場	受	育		松	西	涎	数
幼	旧	復	大	ら	関	育	旧	、	貰	、	当	邸	賞	て	大	尾	の	の	寄
魚	大	し	き	に	す	成	大	松	っ	水	た	を	も	る	場	の	池	極	屋
(場	て	な	は	る	池	場	尾	た	の	り	訪	度	鯉	親	前	°	み	造
く	邸	い	池	、	工	が	邸	に	°	循	に	れ	々	は	子	に	錦	と	り
2	の	た	を	優	夫	あ	の	と	そ	環	し	た	で	評	は	再	鯉	云	の
5	錦	°	望	雅	を	っ	一	っ	の	や	た	、	あ	判	錦	登	が	え	和
c	鯉		む	に	、	た	隅	て	後	水	°	父	っ	が	鯉	場	自	る	室
m	は		が	泳	細	°	に	貴	の	質	錦	親	°	高	の	す	由	°	等
)	、		如	ぐ	部	そ	は	重	設	等	鯉	の	設	く	愛	る	に	一	、
が	若		く	錦	に	こ	父	な	計	、	の	の	計	、	好	事	泳	階	建
中	鯉		、	鯉	渡	で	親	情	に	豊	育	貴	の	九	家	態	ぐ	に	築
心	(何	の	り	は	が	報	役	富	成	重	初	州	で	に	池	は	を
で	2		度	姿	説	、	自	で	立	な	方	な	期	各	、	が	、	、	志
、	5		も	が	明	水	慢	あ	っ	蘊	法	ノ	段	地	°	、	時	和	す
成	く		池	あ	を	の	す	っ	考	蓄	、	ウ	階	で		が	が	室	者
魚	4		の	り	受	循	る	た	え	を	池	ハ	で	の	父	流	挟	を	な
(0		両	、	け	環	方	°	方	披	の	ウ	旧	品	親	れ	み	み	ら
4	c		端	新	た	方	錦		も	露	考	を	大	評	の		東	、	垂
0	m		を	し	°	法	鯉		多	し	え	目		会					

(

す	父	か	仕	る	め	持	で		と	愛	点	と	の	膨	れ	バ	池	狭	く
る	親	ら	組	東	で	っ	あ	新	は	情	の	、	三	ら	で	ラ	を	で	5
庭	に	成	み	池	、	っ	っ	築	自	の	模	父	色	み	あ	ン	泳	あ	5
か	と	魚	を	は	主	て	た	す	明	成	様	親	で	が	る	ス	ぐ	っ	c
ら	っ	に	取	、	に	い	°	大	で	果	が	か	、	均	°	の	姿	た	m
と	、	至	り	面	幼	る	二	場	あ	が	見	ら	ム	等	体	を	°	錦)
、	、	る	入	積	魚	°	ヶ	邸	っ	、	事	は	ラ	な	型	見	錦	が	泳
可	和	錦	れ	も	の	西	所	の	た	池	な	聞	の	鯉	は	る	は	泳	ぐ
愛	室	鯉	、	大	錦	池	の	池		を	錦	い	な	が	と	、	泳	ぐ	に
い	の	が	深	き	鯉	面	池	は		泳	鯉	て	い	良	の	そ	ぐ	は	、
錦	窓	、	め	く	が	積	は	、		ぐ	も	い	明	い	形	の	芸	池	の
鯉	越	自	の	、	対	も	、	錦		錦	いた	た	る	°	滑	言	術	の	造
の	し	由	水	水	象	小	そ	鯉		の	°	中	を	色	ら	葉	と	の	造
姿	、	に	位	位	°	さ	れ	あ		群	父	に	誇	彩	か	が	呼	り	が
を	ま	泳	が	を	父	く	ぞ	り		れ	親	は	る	は	で	納	ば	が	少
愛	た	ぐ	可	調	親	、	れ	き		で	の	、	鯉	赤	、	得	れ	が	々
で	は	池	能	整	宅	深	に	の		あ	経	緋	が	・	左	で	て	少	手
る	、	と	°	で	に	さ	役	設		る	験	紋	良	黒	右	き	い	々	手
こ	散	し	若	き	面	も	目	計		こ	と	斑	い	・	の	た	る	々	手
と	歩	た	鯉	る	す	浅	を			こ	と			白	の		る		

。

。

°20×20

池	課		松	レ	合	化	て	親	ス	の	と		さ	東	の	装	管		は
の	題	当	尾	ベ	わ	が	容	子	テ	経	排	池	り	池	流	置	で	東	、
漏	を	時	の	ル	せ	難	易	の	ム	験	水	の	げ	の	れ	は	結	西	至
水	乗	の	頭	決	を	し	で	要	は	が	の	配	な	吸	は	1	ば	の	福
原	り	頑	痛	定	幾	く	は	求	、	随	水	管	い	い	、	台	れ	池	の
因	越	張	の	、	度	、	な	を	通	所	位	は	が	込	西	で	て	は	時
に	え	り	種	防	と	途	か	具	常	に	を	、	、	み	池	、	い	、	間
結	て	も	に	水	な	中	っ	現	の	反	調	オ	工	部	の	池	る	和	だ
び	い	あ	な	を	く	経	た	化	設	映	整	ー	夫	を	壁	の	。そ	室	っ
付	た	り	っ	考	実	過	。特	す	備	さ	す	バ	さ	経	面	ろ	の	の	た
い	。し	、	て	慮	施	を	に	る	設	れ	る	ー	れ	由	か	過	基	に	違
て	か	竣	い	し	し	含	、	作	計	て	連	ブ	た	し	ら	が	礎	違	い
し	し	工	た	た	た	め	シ	業	と	い	絡	シ	ス	、	水	可	下	い	な
ま	、	時	。配	配	。特	、	ス	は	は	。そ	管	テ	ム	循	膜	能	を	貫	い
っ	時	は	管	管	に	大	テ	、	異	の	等	ム	で	環	形	で	貫	通	。配
た	が	確	の	の	、	場	ム	松	なり	配	、	あ	あ	装	状	あ	通	す	。配
。技	過	か	納	め	水	と	の	尾	、	管	大	っ	っ	置	で	っ	る	。配	。配
術	ぎ	こ	方	方	位	摺	図	に	大	シ	場	た	る	に	吐	。配	連	。配	。配
者	、	の	が	が	の	り	面	と	場	シ	親	掃	。配	戻	出	水	通	。配	。配

調	し	あ	枅		調	花	る	げ	ち	打		術	打	自	結	実	に	痛	の
整	た	り	内	オ	和	崗	。池	は	継	設	池	者	ち	分	果	現	は	感	仕
を	範	、	に	ー	し	岩	周	な	ぎ	。防	自	の	、	の	が	す	必	す	事
容	囲	配	立	バ	、	を	囲	い	は	水	体	魂	諦	力	伴	る	要	る	に
易	で	管	ち	ー	自	採	を	。全	極	性	は	と	め	不	わ	た	で	。難	、
に	あ	と	上	ブ	然	用	覆	ては	力	の	建	云	ず	足	な	め	あ	し	終
す	る	枅	げ	ロ	の	。そ	う	錦	最	高	築	う	に	を	い	に	る	い	わ
る	。連	自	た	ー	一	の	縁	鯉	限	い	工	べ	再	実	こ	努	。精	技	り
た	絡	体	。こ	管	部	重	石	を	と	コ	事	き	び	感	と	力	一	術	の
め	管	は	の	と	と	厚	は	考	し	ン	で	も	立	す	が	す	杯	に	文
、	は	設	点	絡	思	さ	、	え	、	ク	、	の	ち	る	あ	る	考	挑	字
接	ビ	備	検	管	え	は	曙	た	池	リ	水	だ	上	し	。正	そ	え	む	が
着	ニ	工	枅	の	る	庭	色	施	内	ー	密	ろ	が	か	に	れ	、	こ	な
材	ー	事	は	一	趣	全	に	工	部	ト	コ	う	る	な	。そ	れ	施	と	い
の	ル	。松	東	端	が	体	近	技	の	で	ン	。か	し	。自	に	も	主	は	こ
使	管	尾	西	は	あ	の	い	術	防	あ	ク	な	か	分	それ	関	の	、	と
用	、	が	の	、	る	色	色	で	水	る	リ	い	な	に	だ	わ	思	技	を
は	高	担	池	点	。	調	調	あ	仕	。打	ー	。	。	に	っ	ら	い	術	改
な	さ	当	に	検		と	の		上		ト		技	鞭	た	ず	を	術	め
し											で							者	て

2	正	る	に	つ	れ	り	・		環	ハ	検	池	点	で	の		は	特	継
0	に	。	あ	の	、	返	設	建	境	モ	柵	の	検	あ	循	東	頻	に	手
0	、	そ	っ	間	そ	す	計	築	が	ミ	に	場	柵	る	環	池	繁	、	を
9	時	の	た	に	の	。	・	の	異	ジ	合	は	は	。	ろ	な	父	差	
年	計	こ	。	か	業	先	施	業	な	が	は	点	、	点	過	池	親	し	
の	の	と	突	、	務	ず	工	務	っ	あ	点	検	苔	検	装	水	の	込	
7	針	は	然	思	に	は	と	は	て	る	検	柵	む	柵	置	の	作	む	
月	が	、	に	い	埋	、	、	繰	い	。	柵	の	す	は	に	管	業	だ	
に	大	長	、	出	没	現	案	り	た	東	並	庭	庭	池	戻	理	を	け	
。	場	年	時	深	す	在	件	返	こ	西	列	の	の	隣	る	が	簡	の	
	邸	の	計	い	る	進	毎	し	と	の	設	一	部	接	系	更	必	便	処
	で	経	の	大	日	行	に	。	に	池	備	置	に	し	統	に	要	化	理
	戻	験	針	場	常	形	そ	設	な	で	も	で	設	て	、	1	あ	し	と
	っ	で	が	邸	が	の	の	備	。	、	同	、	置	設	吸	ケ	っ	て	し
	て	分	戻	も	常	案	サイ	同		点	様	循	置	置	い	所	た	、	
	しま	か	る	忘	に	件	クル	。		検	。	環	。	。	込	あ	。	大	
	った	っ	場	却	な	が	ル	計		柵	。	用	西	み	る		錦	場	
	た	い	合	の	。	優	を	画		の	。	の	池	配	。	池	鯉	親	
	。	る	が	彼	い	先	繰			設	東	点	の	管	水	に	子	、	
			あ	方		さ				置				用					

。

を	い	説	わ		う	こ	担	者	会	れ	し	名	藤		及	る	の	け	
思	が	明	ら	7	し	の	当	は	社	、	て	で	・		び	記	要	る	意
い	、	が	ず	月	か	場	者	退	の	調	い	あ	設	参	工	憶	請	。池	匠
だ	約	嫌	精	1	な	に	が	社	状	査	た	る	備	加	事	を	だ	に	設
し	束	い	悍	6	か	集	出	し	況	の	。担	。当	工	者	関	手	っ	漏	計
、	ご	だ	な	日	っ	つ	席	て	も	協	担	時	事	、	係	繰	た	水	者
以	と	っ	雰	の	た	た	し	い	似	力	者	の	担	意	者	り	。し	が	か
前	に	た	囲	午	。	メ	て	。	た	へ	の	設	当	匠	が	寄	ら	ら	、
と	は	筈	気	後		ン	い	。	よ	の	の	備	の	設	集	せ	あ	、	大
同	厳	だ	で	、		バ	た	。	う	承	山	工	山	計	ま	。	り	、	場
様	格	。	あ	出		ー	。	時	な	諾	本	事	本	の	っ	。	、	調	邸
に	で	早	っ	迎		で	、	の	も	を	と	会	、	浅	た	指	調	の	こ
、	あ	急	。	え		、	流	め	の	貫	は	社	そ	田		定	査	こ	と
約	っ	な	。	た		今	れ	、	で	っ	運	は	し	・	の	日	を	と	で
束	。	結	確	大		後	は	メ	、	て	良	、	、	建	時	忘	し	と	連
ご	昔	論	、	場		の	残	ン	当	い	く	既	松	設	に	却	て	欲	絡
と	の	は	曖	は		作	酷	テ	時	。	連	に	尾	会	、	の	し	い	を
の	こ	求	昧	、		業	だ	部	の	建	絡	廃	の	社	設	片	い	と	受
遵	と	め	な	相		を	。	門	担	設	が	業	4	の	計	隅	と		
守		な	な	変		行		の	当		取			佐	計	あ			

及	調	目		が	池	を	管	覚	の	数	1	書	タ	を		全	先	管	基
は	査	は	会	一	は	、	内	的	で	字	6	か	で	提	一	て	々	で	礎
困	は	、	議	つ	独	最	の	に	、	に	c	れ	あ	示	連	は	の	あ	下
難	時	調	は	整	立	後	バ	搦	漏	強	m	て	る	す	の	調	こ	る	、
な	間	査	今	理	し	に	ル	ん	水	く	と	い	。	る	経	査	と	。	丁
作	だ	と	後	で	て	説	ブ	で	は	、	な	た	基	。	緯	の	を	基	度
業	け	責	の	き	い	明	は	い	東	理	っ	。	準	。	説	後	、	礎	、
が	の	任	進	る	た	し	、	た	池	系	て	西	点	本	明	だ	下	の	こ
予	問	者	め	説	訳	て	閉	。	の	の	い	池	か	人	の	。	の	配	の
想	題	を	方	明	だ	く	じ	メ	方	思	た	は	ら	が	後		時	管	和
さ	だ	誰	に	で	。	れ	た	ン	が	考	。	約	の	二	に		点	改	室
れ	が	が	移	あ	松	た	状	テ	疑	体	大	2	水	日	、	で	考	修	の
る	、	担	る	っ	尾	。	態	用	わ	系	場	c	位	前	大	え	て	は	下
。	そ	当	。	た	の	つ	で	に	し	を	は	m	の	か	場	も	ほ	通	を
責	の	す	調	。	中	ま	測	設	い	持	文	、	下	ら	が	致	ぼ	っ	て
任	の	る	整		で	り	定	置	こ	っ	系	東	が	測	一	し	不	て	い
者	原	か	す		、	、	し	し	と	タ	の	池	り	定	枚	方	可	る	配
を	因	で	べ		考	東	た	た	を	イ	人	で	位	し	の	な	能		
決	追	あ	き		え	西	こ	連	、	プ	だ	は	置	デ	資		い		
め		る	項		方	の	と	通	感	な	が	約	が	ー	料		い		

。

、

。

て	位		が	を	に	し	続	格	ち	ば	も	し	迫	日	は	の	場	て	る
い	置	翌	、	お	越	た	と	が	は	、	詮	て	っ	常	松	内	で	し	段
る	が	日	そ	願	し	。調	、	発	固	結	ない	い	っ	業	尾	に	あ	ま	階
。理	、	か	の	い	た	査	七	揮	ま	論	こ	る	て	務	に	訴	る	っ	に
屈	漏	ら	日	す	こ	は	月	さ	っ	は	と	。加	。加	に	え	え	。時	た	な
は	水	松	の	。彼	と	ま	末	れ	た	い	で	え	え	加	て	間	。気	。と	
そ	箇	尾	松	の	は	だ	を	た	。こ	た	あ	て	、	え	の	持	、		
う	所	の	尾	快	ない	し	目	訳	こ	ず	る	、	資	、	確	ち	工		
だ	の	苦	の	諾	。山	も	処	。松	こ	ら	。大	有	格	松	保	は	事		
が	目	闘	僥	を	本	、原	に	尾	で	に	場	料	試	尾	が	あ	関		
、実	安	が	倖	得	に	因	した	が	も	引	の	老	験	自	難	っ	係		
際	に	始	で	ら	だ	探	報	担	、松	延	性	人	の	身	し	て	者		
は	な	ま	あ	れ	け	求	告	当	尾	ば	格	事	一	も	い	も	二		
池	る	。下	っ	た	は	の	を	、測	の	せ	を	情	次	多	こ	、	人		
の	こ	げ	た	こ	強	眼	行	定	お	ない	付	を	試	忙	と	会	の		
周	と	止	。こ	と	く	は	う	の	節	。気	度	強	験	な	を	社	腰		
囲	分	ま	と	だ	協	多	こ	の	介	持	す	訴	が	身	、	員	は		
も	か	る		け	力	い	と	継	な	持	れ	し	入	で	暗	の	引		
	っ						に		性	持	れ	所	所	あ	黙	立	け		

位		告	な	声	の	化	は		持	で	あ	錦	て	に	付	へ	時	自	長
置	東	を	か	な	み	な	約	翌	ち	あ	る	鯉	い	気	加	の	間	宅	く
は	池	行	っ	き	と	し	2	日	に	れ	の	が	る	が	さ	往	の	と	、
、	の	っ	た	声	す	°	4	の	な	ば	か	少	°	付	れ	復	短	大	一
簡	測	た	よ	を	る	大	c	測	っ	、	も	ない	全	い	た	時	さ	場	朝
単	定	°	°	掛	°	場	m	定	て	設	知	°	体	た	°	に	だ	邸	一
に	は		安	け	西	の	で	値	し	備	れ	数	が	°	測	測	け	は	夕
は	、		心	る	池	予	あ	で	ま	技	な	多	減	錦	定	定	が	近	に
出	そ		し	°	の	想	っ	、	う	術	い	忙	り	鯉	を	、	幸	い	は
現	の		て	漏	測	通	た	西	°	者	°	な	、	の	始	作	い	距	解
し	後		も	水	定	り	°	池		と	漏	大	体	様	め	業	な	離	決
な	も		良	は	時	°	西	は		し	水	場	型	子	る	が	こ	に	し
か	継		い	君	、	今	池	約		て	が	だ	や	が	と	、	と	あ	な
っ	続		か	た	泳	後	の	2		、	そ	け	色	明	、	多	だ	る	か
た	°		ら	ち	ぐ	は	水	c		申	の	で	彩	ら	大	忙	っ	°	っ
°	下		と	の	幼	東	位	m		し	原	は	の	か	場	な	た	測	°
夏	げ		簡	西	魚	池	減	、		訳	因	、	見	に	邸	日	°	定	松
特	止		単	池	の	の	少	東		な	の	限	事	異	の	常	会	に	尾
有	ま		な	で	姿	測	は	池		い	一	界	な	な	変	に	通	の	の
の	る		報	は	に	定	変	で		気	つ	が	な	っ	化	に	社	う	の

絡	大	査	ラ		に	る	早	お	東	査	八	ら		0	た	っ	と	あ	驟
を	場	す	で	こ	な	と	く	陰	池	の	方	せ	測	c	の	た	ほ	っ	雨
行	の	る	の	こ	な	、	原	で	の	困	ふ	る	定	m	は	。	ぼ	た	も
い	金	た	調	こ	っ	時	因	、	錦	難	さ	。	を	な	、	や	同	。	度
、	銭	め	査	で	た	折	を	錦	鯉	さ	が	そ	続	の	7	っ	じ	一	々
調	的	に	で	、	。°	、	見	鯉	を	を	り	れ	け	で	月	と	°	週	あ
査	了	°	あ	一	婉	大	つ	へ	知	理	°	で	る	、	も	、	あ	間	り
を	解	専	る	の	曲	場	け	の	人	解	測	も	日	底	月	約	る	以	、
実	を	門	°	決	な	か	る	心	の	し	定	、	々	に	末	4	意	上	水
施	得	業	建	断	表	ら	だ	配	愛	て	の	漏	池	近	だ	0	味	経	位
す	て	者	物	を	現	の	け	は	好	く	様	水	側	い	っ	c	、	過	は
る	、	に	基	下	だ	電	で	な	家	れ	子	箇	面	位	た	m	天	し	逆
運	直	よ	礎	した	が	話	あ	な	に	、	を	所	の	置	°	付	候	て	に
び	ぐ	る	下	°	結	連	る	っ	預	協	見	は	異	で	池	近	と	も	上
と	に	調	の	内	果	絡	°	た	け	力	、	発	常	あ	の	で	の	、	昇
な	山	査	連	視	を	が	こ	°	て	の	大	見	に	っ	深	下	闘	最	す
っ	本	な	通	鏡	求	入	の	後	く	一	場	で	目	た	さ	げ	い	初	る
た	へ	の	管	カ	め	る	頃	は	れ	端	も	き	を	°	が	止	で	の	こ
°	の	で	を	メ	いた	よう	にな	、	た	で	調	ない	光		約	ま	も	水	と
	連	、	調		た	う			°						5	っ	あ	位	も

手	所	の		と	の	張	あ	尾		に	報	意	こ	え	っ	改	ひ	を	
く	に	ア	自	が	で	れ	っ	の	解	か	告	味	の	れ	て	修	と	秘	継
い	集	イ	宅	あ	、	と	た	頭	決	く	す	し	こ	ば	い	工	ま	め	る
く	ま	デ	の	る	諦	励	°	脳	の	、	る	て	と	、	な	事	ず	な	思
こ	る	ア	浴	°	め	ま	日	は	道	次	し	い	は	原	か	の	は	が	い
と	絵	が	槽	ま	な	す	常	、	筋	の	か	る	、	因	っ	難	良	ら	で
を	柄	閃	に	さ	け	心	の	東	は	ス	な	°	更	の	た	易	い	°	カ
願	が	いた	浸	に	れば	が	刹	池	、	テ	い	先	に	特	°	度	結	結	メ
い	、	°	か	、	、	同居	那	の	容	ッ	°	ず	悩	定	反	は	果	果	ラ
、	突	お	っ	そ	頭	し	に	陥	易	プ	は	、	ま	が	面	高	、	、	を
知	然	が	て	ん	が	て	解	穿	に見	に	確	正	し	で	、	く	あ	連	挿
人	に	屑	い	な	勝	い	決	に	出	移	な	直	い	き	こ	、	る	通	入
の	浮	で	る	瞬	手	る	策	落	せ	る	道	な	日	な	こ	補	°	管	°
木	か	あ	時	間	に	°	を	ち	な	し	標	結	々	い	ま	修	異	の	二
工	ん	る	だ	が	発	不	探	込	か	か	は	果	が	事	で	方	常	異	律
所	で	°	っ	あ	想	思	る	ん	っ	な	な	を	続	実	の	法	が	常	背
で	き	漏	た	っ	す	議	頭	だ	た	か	い	大	く	も	時	さ	あ	は	反
お	た	水	°	た	る	な	と	状	°	っ	が	場	こ	あ	間	え	れ	な	な
が	°	箇	一	°	こ	も	、	態	松	た	、	に	と	る	を	決	ば	し	思
屑	上	箇	つ				頑	で		°	と		を	°	考	ま	、	°	い

信	ま	再	見	だ	す	行		に	て	対	う	た	に	水	動	違	け	の	を
念	で	度	つ	っ	る	う	原	し	く	に	と	°	同	面	き	う	る	位	手
は	の	の	か	た	日	こ	点	た	れ	駄	悪	落	調	を	は	°	置	に	
あ	約	調	る	が	課	と	回	°	る	目	魔	胆	す	揺	、	で	か	入	
っ	3	査	°	、	の	に	帰		°	だ	の	は	る	ら	大	も	ら	れ	
て	週	は	こ	諦	再	し	、		や	と	囁	大	様	す	場	、	、	る	
も	間	、	の	め	開	た	大		る	、	き	き	子	風	邸	何	期	°	
、	続	お	信	る	°	°	場		し	技	が	く	は	に	の	か	待	東	
先	い	盆	念	選	完	満	と		か	術	聞	、	、	誘	庭	が	感	池	
の	た	休	の	択	全	水	相		な	の	こ	気	悲	わ	に	違	を	に	
見	°	み	元	肢	に	後	談		い	神	え	弱	し	れ	吹	う	持	撒	
え		を	、	は	出	の	し		°	様	て	に	い	、	く	°	っ	き	
な		挟	継	な	口	水	て		改	が	く	な	現	お	風	予	て	、	
い		み	続	い	を	位	、		め	、	る	る	実	が	の	想	水	ほ	
作		、	す	°	見	減	再		て	厳	°	°	を	屑	影	と	面	ぼ	
業		8	る	原	失	少	度		出	し	駄	も	反	の	響	は	を	一	
は		月	し	因	っ	を	の		直	く	目	う	映	塊	だ	明	見	日	
辛		1	か	は	た	、	調		す	叱	だ	諦	し	が	っ	ら	つ	、	
い		8	な	必	松	測	査		こ	咤	、	め	て	微	た	か	め	日	
		日	い	ず	尾	定	を		と	し	絶	よ	い	か	°	に	続	陰	

。

。

基	眺	た	青	海	れ	で	良	思	た		申	添	の	は	な	見	閃	原	少
本	め	が	春	訓	で	あ	い	い	°	道	し	え	で	辛	い	え	き	因	し
で	、	、	時	練	あ	ろ	の	つ	池	標	訳	な	き	く	の	る	を	を	で
あ	目	航	代	所	れ	う	°	い	の	、	な	い	な	、	は	の	探	も	
る	視	海	を	の	ば	か	五	た	周	解	い	事	い	大	何	は	り	時	
°	で	の	思	練	、	°	里	お	囲	決	気	実	こ	場	な	、	続	間	
	自	基	い	習	大	そ	霧	が	で	へ	持	が	と	か	の	能	け	が	
	船	本	だ	船	学	う	中	屑	考	の	ち	重	が	ら	か	力	る	あ	
	の	は	そ	で	時	だ	の	は	え	糸	で	く	辛	の	°	不	°	れ	
	位	天	う	、	代	、	状	駄	て	口	一	、	か	電	弱	足	目	ば	
	置	文	°	大	に	灯	況	目	も	と	杯	引	っ	話	の	の	を	、	
	を	航	当	海	遡	台	で	であ	駄	なる	で	っ	た	が	自	自	閉	東	
	知	法	時	原	れ	か	見	っ	目	何	あ	越	°	怖	分	分	じ	池	
	る	で	も	を	ば	も	え	た	な	か	っ	し	何	く	と	の	、	の	
	°	あ	G	運	良	知	る	°	か	が	た	中	よ	な	姿	の	ヒ	周	
	安	る	P	行	い	れ	灯	何	°	欲	°	の	り	っ	の	の	ン	囲	
	全	°	S	実	の	な	り	処	浴	し	錦	錦	、	た	み	ト	と	に	
	運	星	は	習	だ	い	は	な	槽	か	鯉	に	期	°	°	と	な	座	
	行	空	あ	し	°	°	何	ら	で	っ	も	待	待	報	日	な	り	、	
	の	を	っ	た	航	そ	何	ら	で	っ	も	も	に	告	々	り	る	、	

ス	打	と		か	は	現	る	な	れ	場	た	し		こ	然	気	へ	に	
ト	っ	、	大	っ	避	状	。ま	い	ば	も	。電	の	お	と	で	持	北	な	そ
チ	て	松	場	た	け	で	まし	。そ	、	腹	話	催	盆	が	あ	ち	斗	る	の
ャ	、	尾	の	。	た	は	てや	うで	東	を	で	促	過	、	ろ	で	七	。時	の
ン	も	の	決		い	、	、	であ	池	固	の	で	ぎ	へ	う	あ	星	時	道
ス	う	感	断		。	工	漏	れば	全	め	現	あ	に	北	か	ろ	〜	代	標
、	一	性	を		何	事	水	、	体	た	状	。	、	斗	。	う	は	と	が
最	度	が	聞		と	が	の	、	の	感	分	。	大	七	何	か	何	分	、
後	だ	瞬	く		か	無	原	、	改	が	析	流	場	星	で	。	だ	野	
の	け	時	前		、	駄	因	か	修	あ	を	石	か	〜	あ	そ	ろ	も	北
原	の	の	が		原	に	も	な	工	っ	交	に	ら	に	ろ	れ	う	違	半
因	調	反	、		因	な	分	り	事	た	わ	、	連	繋	う	と	。	う	球
究	査	応	最		を	っ	か	の	を	。	し	大	絡	が	、	も	、	が	で
明	を	を	後		見	て	っ	改	決	大	た	場	が	る	、	、	、	、	は
へ	依	し	の		つ	し	っ	修	め	場	こ	も	入	と	自	ふ	り	今	へ
の	頼	た	チ		け	ま	て	工	る	の	と	限	っ	分	分	、	の	状	北
ト	す	。	ャ		る	う	い	事	か	性	で	界	た	を	を	諦	状	斗	
ラ	る	先	ン		し	。	な	に	も	格	。	で	。	信	信	め	況	七	
イ	。	手	ス		か	無	い	な	知	で	、	あ	見	じ	じ	な	で	星	
で	ラ	を	だ		な	駄	い	な	れ	あ	大	あ	通	。	る	自	の	〜	

柔	る	ロ	夏	ま	後	格	前		為	な	か	り	行		嫌	む	夢	て	あ
ら	。	ハ	の	で	、	試	に	早	が	こ	く	の	う	ラ	な	自	の	い	る
か	木	モ	日	は	慌	験	大	朝	、	と	、	依	こ	ス	姿	分	中	た	。
く	立	ミ	差	、	て	の	場	か	結	は	原	頼	と	ト	で	の	に	。	最
揺	を	ジ	し	多	る	課	か	ら	果	考	点	を	に	チ	あ	姿	東	松	初
れ	吹	に	は	少	よ	題	ら	水	的	え	に	受	な	ヤ	る	に	池	尾	の
て	き	近	厳	余	う	に	聞	張	に	な	戻	け	っ	ン	。	気	が	自	会
い	抜	い	し	裕	に	取	い	り	は	い	り	、	た	ス	解	付	出	身	議
る	け	位	い	が	大	り	て	を	僥	。	、	自	。	の	決	き	て	も	か
。	る	置	い	あ	場	組	い	始	倖	一	現	分	大	水	す	、	く	限	ら
不	風	で	い	っ	邸	む	た	め	に	意	場	の	場	張	る	魔	る	界	、
思	を	、	つ	た	に	こ	。	る	結	専	確	腹	都	り	し	さ	。	に	一
議	感	池	も	。	駆	と	お	。	び	心	認	が	合	は	か	れ	池	近	ヶ
な	じ	の	と	夕	け	が	陰	概	付	、	に	据	で	、	な	て	を	か	月
こ	る	水	違	方	つ	で	で	略	い	愚	徹	わ	あ	初	か	見	つ	上	以
と	。	面	う	と	け	き	、	の	た	直	す	っ	る	め	っ	つ	め	。	は
に	緑	を	場	は	る	た	昼	時	。	な	る	た	。	て	た	。	。	偶	経
、	の	見	所	云	。	。	間	間		こ	。	と	。	松	。	。	に	過	し
初	葉	詰	、	え	満	終	は	は		の	余	水	水	尾	。	。	苦	。	。
秋	が	め	イ	、	水	了	資	事		行	分	に	張	が	。	。	し	、	し

込		が	思	た	置	過	確	り	み	検	の	う		の	五	れ	を	と	の
ん	点	優	い	。完	の	装	認	作	だ	柵	縁	だ	微	流	感	な	覚	に	訪
で	検	先	込	全	戻	置	で	業	っ	だ	石	。こ	か	れ	を	い	え	吹	れ
い	柵	だ	み	な	り	は	あ	で	た	と	近	れ	な	に	澄	。何	る	く	を
た	中	。	の	盲	配	運	っ	確	。	思	く	か	音	、不	ま	か	。	優	感
。	に		怖	点	管	転	た	認	池	っ	に	も	に	思	せ	道	自	し	じ
そ	は		さ	、	経	し	。	し	水	た	歩	知	気	議	、	道	然	い	る
の	、		で	池	路	て	調	て	を	。	み	れ	が	な	目	標	の	悲	だ
隙	イ		あ	と	が	い	査	い	抜	連	寄	な	付	予	を	が	優	風	け
間	ロ		る	云	、	な	を	る	く	絡	る	い	く	感	そ	見	し	に	の
か	ハ		。	う	調	か	始	。	際	管	。	。	。	が	つ	え	さ	、	余
ら	モ		反	言	査	っ	め	そ	に	用	循	祈	何	し	と	て	に	身	裕
、	ミ		省	葉	対	た	た	の	、	の	環	る	か	た	閉	く	触	体	が
微	ジ		は	の	象	。	時	隣	排	点	ろ	気	が	。	じ	る	れ	が	あ
少	の		後	魔	外	そ	点	の	水	検	過	持	流		る	気	た	軽	っ
な	根		、	力	に	の	で	点	管	柵	装	ち	れ		。	が	影	く	た
水	が		今	で	な	た	、	検	の	は	置	で	る		静	し	響	な	。
が	入		は	あ	っ	め	循	柵	抜	確	用	、	音		謐	て	か	る	ふ
漏	り		確	あ	て	、	環	は	き	認	の	池	の		な	き	も	錯	る
れ			認	る	い	装	ろ	未	取	濟	点		よ		時	た	知	覚	さ

。

。

貰		く	長	色	は	の		同	倅	す	は	実	さ	然		が	い	ぎ	て
っ	大	風	く	が	場	大	些	時	に	る	で	な	の	の	地	悪	。	の	い
た	場	、	辛	見	所	き	少	に	感	ば	き	の	生	中	か	偶	処	る	
。	に	自	か	え	で	さ	の	知	謝	か	な	だ	命	の	っ	さ	理	。	
点	早	然	っ	る	は	を	余	る	も	り	い	。	力	こ	た	か	は	当	
検	速	の	た	。	な	感	裕	こ	す	だ	。	松	が	と	。	に	し	然	
柵	報	優	調	木	い	じ	が	と	る	。	悔	脅	は	は	根	、	て	、	
の	告	し	査	々	。	る	生	が	。	同	恨	威	無	目	が	シ	い	点	
補	を	さ	が	の	感	こ	じ	で	自	時	の	に	力	に	伸	ン	る	検	
修	行	に	完	緑	じ	と	た	き	然	に	念	な	さ	は	び	ボ	。	柵	
も	い	感	了	が	る	が	こ	た	の	、	し	っ	を	見	す	ル	通	の	
迅	、	謝	し	柔	人	で	と	瞬	厳	原	か	定	思	え	ぎ	ツ	常	内	
速	ね	し	た	ら	の	き	で	間	し	因	浮	外	い	な	て	リ	、	部	
に	ぎ	た	。	か	心	た	、	だ	さ	に	か	と	知	い	い	ー	漏	は	
完	ら	い	。	く	次	。	庭	っ	と	辿	ば	片	る	。	。	の	水	、	
了	い		。	揺	第	自	が	た	優	り	な	付	こ	自	見	は	あ	モ	
。	の		。	れ	。	然	持	。	し	着	い	け	れ	然	え	あ	り	ル	
悩	一		。	て	今	の	っ		さ	い	。	る	が	の	な	置	得	タ	
み	言		。	い	は	大	自		を	た	猛	こ	現	逞	い	関	な	ル	
抜	を		吹	る	景	小	然		、	僥	省	と	し	自	係	な	塞	塞	

。

長	こ	材	皆	つ	組	ん	組	さ	こ		れ	付	尾	に	こ	は	こ	験	い
か	れ	に	さ	が	ん	は	む	ん	と	「	て	け	の	身	と	、	と	と	た
っ	で	な	ん	、	で	技	人	あ	で	長	い	加	ペ	を	、	が	母	夏	
た	、	っ	次	将	く	術	ほ	り	す	く	る	え	ー	任	誠	で	の	の	
勉	本	て	第	来	だ	者	ど	ま	。問	な	。	れ	ジ	せ	実	き	介	日	
強	日	く	で	に	さ	で	、	す	題	り		ば	に	る	に	る	護	も	
会	の	だ	す	繋	い	。諦	難	。	の	ま		、	加	こ	す	。	に	終	
が	勉	さ	。	が	。	め	し	不	解	し		大	わ	と	る	。	従	焉	
終	強	い	ど	り	何	な	い	思	決	た		場	っ	、	こ	事	を		
了	会	。	う	ま	れ	い	問	議	に	が		か	た	今	と	す	迎		
し	は	長	か	す	は	、	題	な	は	、		ら	。	回	、	る	え		
た	終	々	、	。	そ	心	に	こ	、	こ		の	重	の	、	、	た		
。	了	と	世	大	の	で	遭	と	、	れ		ね	い	全	は	証	以		
心	し	話	の	分	経	、	遇	に	真	が		ぎ	ペ	て	自	に	前		
地	ま	しま	中	の	験	仕	しま	、	劍	私		ら	ー	の	然	、	の		
よ	す	まし	に	設	の	事	す	真	に	の		い	ジ	経	の	日	常		
さ	「	た	役	備	一	に	。	に	取	経		も	で	験	優	に	戻		
と		が	立	業	つ	取	皆	取	た	し		添	あ	が	し	な	格		
、		、	つ	界	一	り	さ	り	く	た		え	る	、	い	に	試		
			人	は	一							ら	。	松	さ		る		

育		ベ	の	の	ホ	次	も	え			来	そ			思	今	腰	た	熱
が	大	き	メ	中	ー	世	、	る	周	□	を	れ	明	「	え	村	を	。	す
難	分	で	ッ	に	ム	代	幕	年	囲	エ	信	は	る	先	た	の	上	扉	ぎ
し	の	あ	セ	あ	ペ	へ	引	齡	か	ピ	じ	へ	い	生	。	姿	げ	に	た
い	状	る	ー	る	ー	の	き	と	ら	ロ	て	神	声	、	が	る	近	自	
会	況	。	ジ	技	ジ	伝	を	な	は	ー	、	の	だ	今	あ	。	い	分	
社	を		で	術	上	承	図	っ	若	グ	次	み	。	日	っ	扉	メ	へ	
が	鑑		あ	フ	で	を	る	た	い		回	ぞ	私	は	た	の	ン	の	
大	み		。	ア	の	主	年	。	と		も	知	の	あ	。	前	バ	街	
多	れ		技	イ	技	と	代	慣	評		頑	る	話	り	何	に	ー	い	
数	ば		術	ル	術	し	で	れ	判		張	こ	が	が	か	近	か	に	
だ	、		の	の	の	て	あ	親	の		る	と	役	と	が	付	ら	、	
。	組		伝	公	公	い	る	し	松		。	だ	に	う	吹	退	松		
教	織		承	開	開	た	。	ん	尾			っ	立	ご	っ	席	尾		
育	立		は	は	で	。	こ	だ	も			た	て	ざ	切	す	は		
は	っ		図	、	あ	そ	こ	設	、			。	ば	い	れ	る	戸		
先	た		ら	次	る	の	数	備	古			彼	嬉	ま	た	。	惑		
輩	社		れ	世	。	一	年	の	を			の	し	し	表	松	っ		
の	員		る	代	抽	つ	は	仕	迎			未	い	た	情	尾	て		
知	教			へ	斗	が	、	事					が	「	に	る	も	い	

に		新	と	修	の	て		で	い	分	そ	で		強	世	設	ま	が	識
足	会	と	が	得	難	い	ホ	あ	こ	流	の	、	松	会	代	備	で	抜	に
る	社	ホ	急	し	し	た	ー	っ	と	の	受	先	尾	で	の	業	は	き	委
人	は	ー	務	た	い	。設	ム	た	で	味	け	輩	自	あ	松	界	、	に	ね
物	順	ム	の	松	時	備	ペ	。°	あ	付	継	の	身	っ	尾	の	応	な	る
で	調	ペ	よ	尾	代	業	ー		る	け	い	薫	、	た	が	先	用	り	こ
、	に	ー	う	の	に	界	ジ		。°	を	だ	陶	若	°	で	輩	の	、	と
経	経	ジ	に	ノ	な	に	で		そ	加	技	を	い		と	し	効	理	が
営	営	の	思	ウ	っ	A	の		れ	え	術	受	時		て	か	解	普	
感	で	リ	え	ハ	て	I	技		が	、	は	け	代		こ	な	度	通	
覚	き	ニ	た	ウ	い	が	術		、	次	、	て	は		と	い	の	で	
も	て	ュ	°	を	る	導	公		松	世	時	成	東		は	人	不	と	
間	い	ー	そ	、	。°	入	開		尾	代	と	長	京		情	材	足	も	
違	る	ア	れ	次	ふる	さ	も		の	に	場	し	の		報	に	を	す	
い	°	ル	が	世	さ	れ	、		正	伝	所	た	大		の	な	招	れ	
な	社	で	、	代	と	、	ほ		直	承	を	過	手		公	り	く	°	
い	長	あ	会	に	大	舵	ぼ		な	し	変	去	設		開	か	そ	の	
°	は	る	社	継	分	取	完		気	て	え	が	備		と	ね	の	理	
既	信		の	ぐ	で	り	了		持	も	、	あ	会		昭	な	ま	屈	
に	頼		刷	こ			し		ち	良	大	る	社		和	い			

た	り	先	今	た	の	当		し	あ	る	ま	ブ	最		の	れ	I	業	経
が	の	を	村	今	姿	者	約	た	る	。メ	か	デ	後	迅	責	て	技	界	営
、	再	考	は	村	勢	が	束	。迅	。僅	な	な	ザ	の	速	任	い	術	の	の
そ	会	え	、	の	で	会	の	速	か	ル	構	イ	仕	な	で	る	の	未	基
の	に	れ	想	姿	、	社	時	な	数	配	想	ン	事	行	あ	。そ	導	来	本
後	な	ば	定	だ	松	を	間	反	日	信	を	会	に	動	り	の	は	は	伝
の	つ	、	内	っ	尾	訪	前	応	で	は	メ	社	取	が	、	方	不	承	が
消	た	自	の	た	を	れ	に	に	、	、	ー	に	掛	取	向	未	透	承	が
息	。退	明	顔	。吃	待	た	、	期	最	、	ル	連	か	り	性	来	明	が	で
ま	社	な	付	驚	っ	。応	ウ	待	初	会	で	絡	つ	柄	を	あ	で	あ	き
で	し	こ	き	仰	担	接	エ	感	の	議	配	を	た	の	定	る	あ	。技	て
は	た	と	で	天	当	室	ブ	が	会	の	信	入	。知	松	め	。技	術	。た	。た
知	こ	あ	あ	の	者	の	デ	高	議	の	し	れ	り	尾	る	。社	者	。た	だ
ら	と	る	。業	再	が	一	ザ	ま	の	日	、	。同	合	で	。社	経	不	。設	。設
な	は	。約	務	会	い	隅	イン	っ	の	程	意	時	い	あ	。経	営	足	。設	。設
か	聞	約	の	に	。成	に	会	て	日	が	思	に	の	っ	が	が	や	。設	。設
っ	い	4	依	な	長	、	社	く	決	手	疎	、	ウ	。早	望	。設	。設	。設	。設
た	て	年	頼	っ	し	直	の	る	定	段	通	大	エ	速	ま	。設	。設	。設	。設
。い	い	ぶ		た	し	立	担	。い	定	で	を			、	尾	。設	。設	。設	。設

。

っ		そ		の			案	る	若		し	る	に		い	あ	退	は	
た	資	れ	「	後	「	「	が	。確	い	柔	い	の	会		た	り	社	、	「
。一	料	で	分	の	大	お	愉	実	今	ら	話	か	え		し	ま	し	大	「
言	の	は	か	予	丈	時	し	に	村	か	は	も	て		ま	せ	た	変	松
で	一	、	り	定	夫	間	み	、	だ	な	後	。こ	、		ん	こ	お	世	尾
言	枚	順	ま	は	だ	、	に	成	が	眼	で	う	嬉		で	と	話	話	先
え	目	序	し	特	よ	ど	な	長	、	差	、	し	い		し	、	に	に	生
ば	で	だ	た	に	、	の	っ	し	大	し	先	て	で		た	気	な	ご	、
、	、	っ	。あ	い	気	位	た	て	人	に	ず	再	す		。遅	に	り	無	、
セ	出	て	り	か	に	良	。い	い	の	な	は	会	。今		れ	な	ま	沙	、
ン	来	説	が	ら	し	い		る	雰	っ	座	で	村		ば	っ	し	汰	、
ス	映	明	と	「	な	で		証	囲	て	っ	き	く		せ	て	た	し	、
が	え	さ	う		く	す		で	気	い	「	た	ん		な	い	。換	。い	、
良	の	せ	ご		て	か		あ	が	。今		訳	と		が	ま	拶	。そ	、
い	良	て	ざ		良	「		。彼	身	で		だ	は		ら	し	も	な	、
。バ	さ	頂	い		い			の	に	も		か	縁		、	。申	し	し	、
ラ	が	き	ま		か			提	付	十		ら	が		ご	し	に	の	、
ン	明	ま	す		ら				い	分		。詳	あ		報	。告	節	の	、
	白	す	。		。こ				い						告		に	の	、
	だ	「	。		こ				い						告		に	の	、

建		こ	の		く			リ	繫	界	〜	能	に	画	端	績	ジ	料	ス
築	「	ま	打	「	思	「		ニ	が	に	で	に	も	面	的	と	の	で	・
や	先	で	ち	今	い	松		ユ	っ	身	あ	感	関	の	な	の	画	あ	色
設	生	弊	合	村	ま	尾		ー	っ	を	あ	嘆	わ	よ	表	連	面	る	彩
備	と	社	わ	く	す	先		ア	て	置	っ	し	ら	う	現	携	上	。感	覚
の	の	を	せ	ん	。頑	生		ル	い	い	。勿	た	ず	だ	で	性	に	素	に
こ	勉	理	だ	、	張	か		は	る	た	論	。や	、	っ	出	、	、	晴	に
と	強	解	よ	一	っ	ら		、	の	こ	、	ほ	こ	た	現	将	設	ら	優
は	会	で	。メ	つ	た	お		こ	う	と	一	り	れ	。少	し	来	備	し	れ
、	が	き	ール	だ	甲	褒		の	。と	が	時	、	ほ	な	て	に	の	い	、
分	基	た	だ	け	斐	め		内	に	、	期	今	ど	い	く	向	概	。次	瞬
か	本	ね	だけ	教	が	の		容	か	彼	と	村	の	情	る	か	要	々	時
っ	に	。ど	け	え	あ	言		で	く	の	は	は	表	報	。印	う	・技	と	全
て	な	う	で	。今	り	葉		十	、	摺	は	へ	現	量	象	会	術	、	体
い	っ	し	、	日	ま	を		分	依	み	云	で	力	の	の	社	の	ホ	を
ま	い	て	よ	が	し	頂		で	頼	の	え	き	が	短	強	の	特	ー	挿
し	ま	？	く	初	た	き		あ	し	見	、	る	で	い	い	方	徴	ム	め
た	す	「	、	回	「	、		っ	た	事	設	人	き	時	C	向	・	ペ	る
。設	。こ		こ			嬉		た	た	さ	備	材	る	間	M	性	実	ー	資

へ		す	い	張		期	ね	講	術	に	の		た	り	は	る	っ	た	備
出	松	。技	ま	り	「	待	。ふ	師	者	良	中	「	。ご	組	、	味	っ	。分	技
藍	尾	術	せ	ま	責	し	る	冥	に	く	を	参	む	自	付	て	野	術	
の	の	者	ん	す	任	て	さ	利	な	で	覗	っ	こ	分	け	い	は	や	
誉	心	の	。諦	。先	重	見	と	だ	っ	き	か	た	と	な	を	す	違	仕	
れ	に	魂	め	生	大	守	大	ね	た	て	れ	な	が	り	し	。そ	い	事	
へ	、	、	ない	の	で	る	分	。技	ね	い	た	。自	で	に	ま	こ	い	の	
だ	爽	こ	い	漏	す	こ	で	術	。嬉	る	よ	分	き	調	こ	こ	ま	心	
と	や	れ	気	水	。ご	と	頑	者	し	。業	う	の	、	べ	に	、	す	構	
思	か	か	持	調	期	に	張	魂	い	界	で	イ	や	ま	、	が	え	は	
う	な	ら	ち	査	待	す	る	、	限	は	、	メ	り	し	今	、	今	、	
。彼	春	も	を	の	に	か	君	今	り	違	恥	が	た	諦	の	の	勉		
に	風	大	肝	経	添	ら	の	後	だ	う	ず	と	。今	め	仕	の	強		
、	が	事	に	験	え	こ	こ	も	。昔	が	か	う	回	ない	事	の	会		
技	吹	に	銘	談	る	と	、	大	を	、	し	ご	は	気	支	で			
術	き	し	じ	、	よ	、	今	切	思	立	い	ざ	夢	持	え	学			
者	抜	ま	て	忘	う	後	後	に	え	派	な	い	中	ち	に	び			
魂	け	す	い	れ	、	も	も	し	ば	な	本	。頭	で	を	え	ま			
を	る	「	ま	て	頑			て		技	当	「	し	伝	し				

街	れ	仕	大	分	芸	が	勉	め	が	き	り	と	嬉	重	る	り		る	教
並	、	事	分	の	術	あ	強	を	、	る	が	、	し	み	。	、	今	か	わ
み	私	を	の	地	性	っ	会	付	彼	人	で	秀	い	を	頼	村	。	っ	た
を	の	し	風	で	が	た	で	け	は	材	き	逸	事	感	も	を		た	よ
吹	教	て	土	頑	生	だ	公	た	へ	を	、	な	実	じ	し	、		う	だ
く	え	い	が	張	か	け	言	上	石	喪	着	技	で	る	く	会		だ	。
春	子	る	持	っ	せ	な	し	で	の	失	眼	者	あ	。	な	社		。	も
風	よ	。	っ	て	る	の	た	の	上	し	点	を	。	そ	た	前			う
に	。	喜	進	い	分	だ	よ	転	に	た	が	失	。	れ	姿	の			少
、		ば	取	る	野	。	う	職	も	訳	良	っ	建	は	に	通			し
木		し	性	。	だ	今	に	で	三	だ	く	た	築	、	、	り			だ
蓮		い	を	大	。	の	、	あ	年	。	、	こ	設	技	過	で			け
の		限	、	友	業	仕	彼	。	～	残	諦	と	備	術	ぎ	見			、
香		り	精	宗	界	事	に	立	を	念	め	に	の	者	去	送			仕
り		あ	一	麟	は	は	は	派	実	な	ない	なる	業	の	っ	っ			事
が		る	杯	の	違	、	大	な	践	思	い	。	界	成	た	た			を
微		。	生	時	う	彼	切	こ	し	は	強	気	を	長	。	。			頑
か		頑	か	代	が	の	な	と	、	強	い	配	考	と	間	応			張
に		張	せ	か	、	持	世	だ	け	い	で	る	え	云	の	え			

